

クラス	Q303	担当教員	倉掛 崇
テーマ	情報メディア／コミュニケーション／文化		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「メディア受容研究とオーディエンス像の変貌——カルチュラル・スタディーズ派によるオーディエンス研究を参照点として」『総合学術研究論集』創刊号、2011年 ✓ 「〈におい〉感覚を巡るメディア言説の計量分析」『総合学術研究論集』2号、2012年 ✓ 「Google Apps の教育活用を推進するビデオコンテンツの開発」『全学教育センター紀要』2号、2014年 		
ゼミナール概要			
キーワード：ICT（情報コミュニケーション技術）、メディア、コミュニケーション、文化			
◆ 目的・内容			
<p>本演習では、新聞、放送、出版、映画、広告などのマス・メディアはもとより、電話、インターネットなど、メディア・コミュニケーション全般を対象に、それらが社会的・文化的にどのような役割を担い、どう機能し、どんな影響を与えているのかを探究します。これを通して、演習に参加する皆さん一人一人が、メディアと社会の関係をより良いものにする／構築するための導き糸を発見できればと思っています。</p> <p>4年次の卒業研究にあたっては、おもに次の2つの方向性が考えられます（いずれかを徐々に具体化）。</p> <p>第一に、上記のゼミテーマ（大きな枠組み）に関連した具体的な研究テーマを設定し、社会科学的方法論、たとえば、メディアコンテンツ（新聞／雑誌記事、テレビ番組・CM、音楽歌詞など）の内容分析、特定のフィールドを対象とした質問紙調査やインタビュー調査をもとに、データを収集・分析し、卒業論文を執筆すること。</p> <p>第二に、とくに、教職志望（校種は問わない）の学生が対象になるかと思いますが、ICTを活用した教材開発や授業デザイン、ワークショップデザイン、映像制作などを卒業制作として取り組むことです。近年、教員のICT活用指導力が求められており、学校の教室へさまざまなICT機器（パソコン、タブレット、スマートフォン、電子黒板、デジタル教科書など）の導入が進んでいます。教員を志す皆さんには、演習での活動や卒業制作を通して、将来、これらを自身の授業等で有効に活用できるようになってほしいと思っています。</p>			
◆ 方法・授業計画等			
<p>前期は、ゼミテーマに関する基本文献の輪読を中心に進め、演習参加者全員の共通理解、知識・スキルを獲得したいと思います。後期には、参加者各自の問題関心・テーマを明確化／深化させるために、発表・報告とディスカッションを繰り返しつつ、今後の研究を具体化するための方法論やICT技術に関して、教員から適宜レクチャする予定です。なお、一年を通して、ゼミを作っていくためのアイデアや企画提案を歓迎します。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 大学での学びの集大成としての卒業研究は、就職活動とともに、大学最終学年での活動の「両輪」です。皆さんにとって、来年（3年次）はその最終準備の年となります。「専門演習Ⅰ」では、この両輪が上手く回るように、自身の関心事項を追求してほしいと思います。 ➤ 演習では、個人での作業（読む／書く）に加えて、グループワークやピアレビュー（聴く／話す）を多く取り入れることを考えています。「他の学生がどう考えているかを知る」ことや、「他の学生に自分の考えを論理的に伝える」ことを繰り返すことで、気づきが増え、学びが深まることを期待しています。 ➤ わたしは、2013年4月に日本福祉大学へ赴任しました。以来、「情報処理演習」や「インターネット演習」のほか、SPSSを使用した統計分析の授業「心理データ処理演習」など、情報教室での演習授業を中心に担当する傍ら、学内でのGoogleAppsやnfu.jpの教育活用、普及促進を担ってきました。ゼミのなかでも、こうしたICTや最先端のウェブサービスを積極的に活用しつつ、その可能性を追求していきたいと考えています（初歩的なところから一緒に学習しましょう http://ur0.pw/oRNd）。 ➤ 子達の専門演習ゼミを担当するのは、2016年度が2年目になります。まだまだ、試行錯誤の時間が多くなることが予想されますが、皆さんと協力して実りのあるゼミを作っていければいいなと思っています。 			
			